



～つるおかの読書の未来を考えよう!～

---

つるおかのみなさんと、  
つるおかの読書の魅力について語ろう

読書は、学びであり、楽しみであり、そして「知的好奇心」を満たしてくれる。子ども時代に、宝物となるような出会いがあること、読書を通して心豊かで健やかに成長できることを願い、鶴岡市子ども読書活動推進計画をつくりました。

そして、大人も読書を楽しみ、未来を担う子どもたちと関わりながら、共に「読書の魅力」について考えてみませんか。

読書の魅力、可能性について語りましょう。

# 佐藤 巖 さん (さとう いわお)

## ■ プロフィール

平成17年度から19年度まで副館長として、  
平成26年度から28年度には館長として在籍する。  
鶴岡市立図書館開館100周年時の館長

## ■ 図書館在籍中のできごと

- ・平成17年、1市5町村が新鶴岡市として合併し、東北一の広い面積を有する行政区域となる。
- ・市立図書館は本館、藤島、羽黒、櫛引、朝日、温海分館の6館体制で図書館サービスを提供することとなる。
- ・平成27年には、図書館が開館100周年を迎え、作家 阿刀田 高氏を迎えた記念講演をはじめ、数々の記念事業を開催する。
- ・鶴岡市子ども読書活動推進委員会を設置し、同推進計画を策定した。

# 100 周年

鶴岡市立図書館開館記念100周年事業は、  
どのような企画をされましたか。  
また、印象に残っていることはありますか。

---

図書館開館100周年を迎えた平成27年は、  
大人から子ども向けまで、多彩な催しを行いました。

100周年記念式典と阿刀田高さんの記念講演会、また現在の小説家ライター講座のきっかけとなった郷土出身作家 佐藤賢一さんと評論家 池上冬樹さんの対談など、図書館と図書館活動のPRに努めました。

特に図書館来館者に向け、建物の南側に朝顔で100周年を示す「100」の文字を作り上げました。毎日10数センチ伸びる朝顔のつるを約2か月かけて形にするのは大変でしたが、完成した時の満足感は今でも覚えています。

※最後に「100」の文字の朝顔 写真あり

## 子ども 読書

待望の子どものための読書推進計画。  
委員会設立から計画の策定までされました。  
当時ご苦労されたことなど教えてください。

---

鶴岡市で初めて策定した推進計画でしたが、策定に関わっていただいた委員の皆様が発案、また良いものを作っていこうという熱意が込められた計画となりました。

計画は、図書館だけではなく保育園や学校、家庭や地域などすべての人々が協力して、読書活動を推進していくことを基本としたことで、市民全てが何らかの形で計画に参画できる計画となりました。

また、策定を通して図書・読書に関わる多くの方々と情報交換ができたことは、私の図書館運営の貴重な財産となりました。

## 図書館 可能性

図書館現場から離れたいま、これからの図書館にできること、可能性についてたくさんあるかと思いますが、ひとつだけ上げるとしたら何でしょうか。

---

図書館が、もっと多くの人が集まる場所になったら素敵だと思います。

たとえば、秋の山菜シーズンであれば、図書館と農業・林業関係機関が協力し「毒キノコの見分け方講座」などを開催したらどうでしょう。山菜に興味のある人が、図書館を利用する良い機会になるとと思います。

人々が集まる場として活用する。そのために図書館事業をテーマ別に多方面の方々と協力して行うことで、図書館・図書の魅力がより広まっていくのではないのでしょうか。

図書館の役割は、本を貸し出すことだけではなく、「大きな知」のネットワークの入り口としての可能性があるのではないのでしょうか。

今いちばん  
お気に入りの  
本を教え  
てください



「13歳からのアート思考  
～自分だけの答えが見つかる～」  
著者 末永幸歩  
出版 ダイヤモンド社 2020

アートとは何か、難しい内容を大変分かりやすく  
解説しています。おかげで美術鑑賞も大変気軽  
にできるようになりました。お勧めです。



平成27年、100周年記念に建物の南側に朝顔で「100」を描く。  
(昭和60年7月23日は現本館が開館し、記念式典が行われる。)